子育てのインフラとして機能する施設

図27：南西側からの鳥瞰パース

●施設整備の方向性と基本的な機能の具現化について

①快適で安全に遊びができる場

▮児童の年代ごとにゾーニング
・安心安全なエリア分け

▮見通しの良い平面レイアウト
・子どもへ目が届きやすい

▮2階建て案がつくる安心感
・侵入や見られることを防ぐ

▮地域の方々とつくる
・街のひろばに集う地域の方々の目・耳・声をお借りして不審者を見張り、車道への飛び出しを見守る。

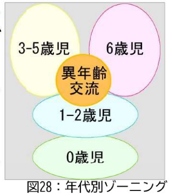


図28：年代別ゾーニング

②子育てに対する不安や疑問が解消できる場

▮相談室の設置、交流・情報交換の提案

▮近隣施設との情報共有連動イベント
・子ども相談支援センター（あいぴあ）
　基幹相談支援センター（あいか）との連携

③子ども同士の交流ができる場

▮子どもたちが自発的に見つける”場”
・中心のあそびの場　交流、親子読書の場
・街、雲、砂と水、緑の4つのひろば
・様々な教室が行われる学びの場の多目的室

④子どものウェルネスを向上する場

▮自分の手や体の感覚を敏感に使って遊べる環境
・年代別に合せた遊具・仕掛けを設置
・専門スタッフによる提案・サポート

⑤親子がともに遊び学ぶことで互いに成長できる場

▮多世代との交流でつくる子育て仲間の集まる場
・コミュニティを形成できる魅力的な施設

⑥遊びや学びを通じて気づく子どもたちの姿への早期介入を実現する場

▮同世代の子どもたちから学ぶ
・コミュニティ空間の形成
・親子同士、専門スタッフとの交流

⑦子育て力を育成する場

▮子育ての先輩から学ぶ
・高齢者世代との交流・相談の場をつくる
・かもだ通り商店街との交流

近隣・周辺環境に配慮した配置計画

▮隣接建物や道路面に対してのセットバックを行い圧迫感を軽減し、採光・通風の確保を行い安心感と開放感を両立させます。

歩行者も車も安心な動線計画

▮駐車場から建物へのアプローチの確保、南側と西側歩道からの歩行者専用動線、低木の植栽等で敷地境界を囲う計画とします。

❶エントランスホール：建物西側に2階へ繋ぐ出入口を設置　西側道路、駐車場側、南側と3方向よりアクセス可能

❷街のひろば：計画建物と街を繋ぐ。
シンボルツリーを囲みながらイベント等が行える交流・憩いの場を創出。
かもだ通り商店街とのイベント共同開催により地域活性化を促す。

-配置図兼1階平面図- S=1:300

❸駐車場：計73台
W2.5m×D5.0m　54台
W2.7m×D5.0m　8台
W3.2m×D5.0m　3台
（らくらくスペース）
W2.0m×D5.0m　4台
（軽専用）
W3.5m×D5.0m　3台
（パーキングパーミット）
W3.0m×D7.5m　1台
（中型マイクロバス）
車路巾　5.0m～6.0m

❹駐輪場：20台

❺浄化槽：80人槽
（し尿処理特化型）

❻WC：屋外活動時対応

図29：街のひろば場イベント時イメージ

❼かもだんだん（屋外階段）
大きな遊具のような階段を設けます。街のひろばより子どもたちが遊び、挑戦しながら楽しむことができる階段とします。地域のイベント時の観客席や浸水時の一時避難のルートになります。

明快なゾーニングと機能を充実させた平面計画

①あそびの場（ｷｯｽﾞｽﾍﾟｰｽ）（310㎡）：図33,図35

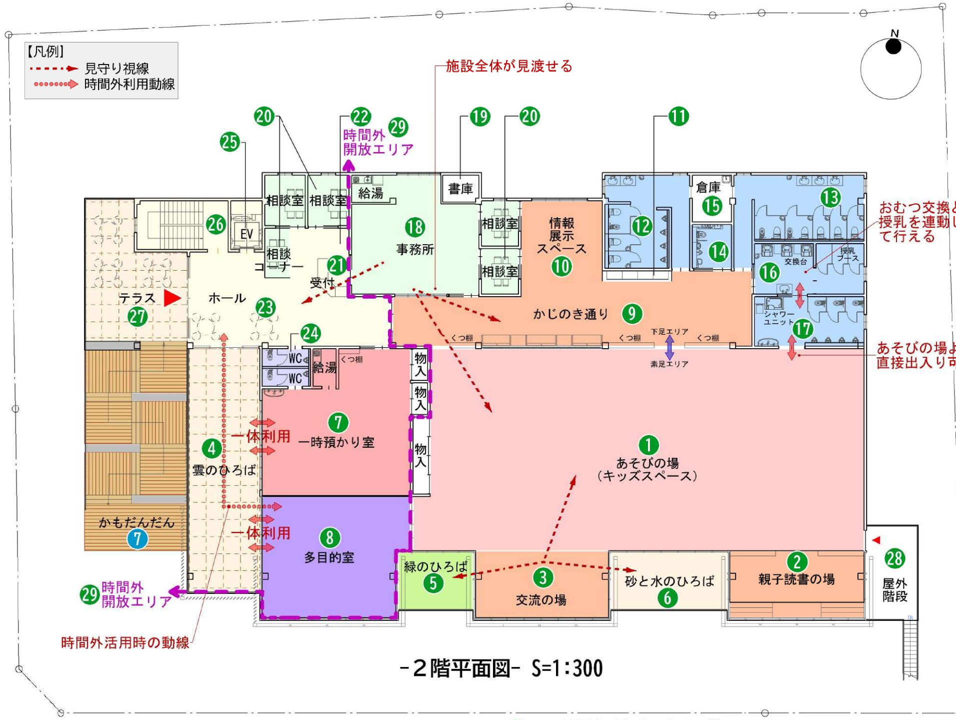
- 発達や興味に合わせて体を動かすトランポリンのように弾むマット状の遊具や、アスレチック遊具と連結したボールプール、クライミングウォール、大型ブロックの組み立て遊具などを用意して天候に左右されずはしる・とぶ・のぼるなど身体を様々に動かして遊ぶことが可能。
- ガラスや大きなキャンパスを使ったダイナミックなお絵描きができるほか、植物や生き物を調べられる図鑑や絵本、磁石・歯車を使った造形遊びの遊具を用意して自由な表現遊びを通じて思いや考えを自分なりの方法で表現する力や論理的に考える力想像力を育む。

②親子読書の場（32㎡）：日の当たるあたたかい場所で絵本、児童書を中心に多様な書籍が揃った親子でゆったりとくつろぎながら読書や読み聞かせを楽しむ事ができる。図30

図30：親子読書の場イメージ

③交流の場（32㎡）：ハイハイ、つかまり立ちの動きを促す遊具を揃え保護者にとっての子どもの成長の発見の場や親同士の交流の場となる。フロアー・全体を見渡せる。図31

④雲のひろば（屋外広場）（60㎡）：雨の日、日差しの強い日でも、白いテントの下快適に遊ぶことが可能。街のひろばでのイベント時や一時預かり室・多目的室とは屋内外が連続して一体となった利用形態が可能。図32



-２階平面図- S=1:300

⑤緑のひろば（屋外広場）（15㎡）：人工芝を敷き詰めて0～2歳児専用の屋外広場

⑥砂と水のひろば（屋外広場）（24㎡）：砂場や幼児用プールを設けた屋外広場　図34

⑦一時預かり室（70㎡）：動線や時間外の利便性を考慮して建物出入口、事務所に近接して専用のWC、手洗い、給湯室を設置。雲のひろばとの一体利用が可能

⑧多目的室（60㎡）：各種教室に対応できる仕上材を選定。災害・浸水時には避難待機室へ転換。時間外での活用も可能

⑨かじのき通り：幅の広い見通しの良い空間としてそれぞれの主要室へのアクセス通路と休憩スペースを兼ねる。床材を汚れにくく耐久性の高い材料を使用。背の低い靴棚を分散して配置し滞ることなく”あそびの場”に入室可能

⑩情報・展示スペース：子育てや生活情報の発信各種教室で制作した作品の展示

⑪貴重品・手荷物ロッカー：活動空間で利便性の良い位置に配置

⑫男子トイレ（28㎡）：親子トイレ1ヶ所、小便器4ヶ所(内1箇所子供用小便器)、洋式便器2ヶ所全てと手洗い器箇所にベビーチェア設置

⑬女子トイレ（32㎡）：親子トイレ2ケ所、洋式便器3ヶ所全てと手洗い器箇所にベビーチェア設置

⑭みんなのトイレ（7㎡）：子ども用便器設置車いす使用者、オストメイトに対応

⑮備蓄倉庫（7㎡）：水、粉ミルク、おむつ、トイレットペーパーなどの保管

⑯おむつ交換室・授乳室（20㎡）：効率的な動線を考慮して隣り合わせに設置。
おむつ交換台3台、流し台、授乳用3ブース設置

⑰キッズトイレ（20㎡）：幼児用小便器4ヶ所、洋式便器3ヶ所、幼児用手洗い器1ヶ所、シャワーユニット1ヶ所設置。あそびの場より直接入室可能

⑱事務所・給湯室（50㎡）：ホールに近接させてフロアー全体を見渡せて効率的な管理が可能

⑲書庫（4㎡）：利便性が良い所に配置

⑳相談室（35㎡）：プライバシーに配慮し分散に配置。個別対応が可能。気軽に相談ができるコーナーも設置。子どもの発達状況に応じた相談や簡易検査なども行える仕様とする。
落ち着いた色彩の壁、安全面に配慮した机とイスの選定を行う。
スタッフの打合せ室として兼ねることも可能。

㉑受付：コンシェルジュカウンターを設けてご利用者の出入りの管理、施設案内、検温等を行う

㉒車イス・ベビーカー置場：室内用の貸出車イスを常備しベビーカーの一時預かり箇所と兼用

㉓ホール：かもだんだんと屋内階段、ｴﾚﾍﾞｰﾀｰ、雲のひろばを繋ぐ。休憩スペースも兼ねる

㉔WC：屋外活動時の使用に対応

㉕エレベーター（EV）：バリアフリーに配慮した11人乗りを1基設置

㉖屋内階段：階段巾を広く蹴上高を抑えて安全に配慮した階段

㉗テラス：屋外の休憩スペース　飲食可能

㉘屋外階段：通常使用する階段と対角の位置に避難用として設置

㉙時間外開放エリア：多目的室、相談室等を時間外に使用する時のエリア分け、動線を確保

●機械室・電気室：災害、浸水時に備えて屋上に集約

図31：交流の場イメージ

図33：あそびの場（低年齢児ゾーン）イメージ

図35：あそびの場（高年齢児ゾーン）イメージ

図32：雲のひろばイメージ

図34：砂と水のひろばイメージ

記憶に残るファサード　デザインコンセプト

歴史的に由緒ある地で後世に残すべく伝統や文化が多くあります。計画建物を「柁の木伝説」にある大楠の木に例え、子育て環境を行う巣箱を設けて「子育て、交流を地域で見守り、子供達が巣立つまで」をデザインコンセプトとします。

図36：「柁の木伝説」

メンテナンス、更新性への配慮

・大規模修繕の頻度を削減する為、定期的で細やかなメンテナンス計画による長期修繕計画を策定・提案します。

▮内外装について

元気で活発な子どもたちの日常の中では、仕上や家具などは傷みが早まることも想定されます。内装材に木材を使用し、更新やニーズの変化による変更を容易、気軽に行うことが可能となります。外装材については、「フッ素樹脂塗装＋光触媒塗布」を採用し防汚性の高めます。

▮清掃メンテナンスについて

降灰に対して、屋根勾配を十分に設定し、竪樋はつまりが無いよう大口径のものを選定します。

▮設備機器の更新性

基幹設備は屋上へ集約配置し更新工事、メンテナンスを容易にします。

▮スケルトン・インフィル工法

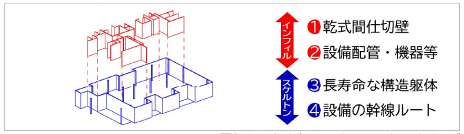


図37：スケルトン・インフィルのイメージ

植栽計画について

・日陰、落葉等によって周辺地域へ支障を及ぼさないよう配慮し、景観と調和し良好な景観構成される計画を行います。

・土地的・気候的条件を考慮し、有毒・有害寄生虫の有無に留意した植栽を選定します。

災害から守る

有事の際の避難経路として、３方向に階段を設置し、視認性の良い誘導サインを設け、最短距離で避難できます。

火災：耐火性能の高い建物とすることでゆとりある避難時間の確保と被害の最小化

地震：ガラスの飛散防止措置。天井の軽量化と耐震対策。遊具、家具、什器の転倒防止で二次災害を防ぐ

豪雨：雨水を適切に処理できる屋根勾配や敷地内の排水計画を行う
１階を駐車場、２階に建物、屋上に基幹設備を配置することで浸水被害を防ぐ

図38：南側パース

配置・形態がつくる合理的な環境計画

▮用途、季節、時間に合わせた採光計画

巣箱をイメージとした木製のルーバーは木板の板幅、取付角度を検討して、夏季の直射日光は軽減し冬季は多くの太陽光を取り込み、快適な活動環境をつくります。

▮外付けルーバーによる効果

窓開口部からの日射と外壁からの熱負荷を低減します。窓ガラスにはＬｏｗ－Ｅガラスを採用し、ペリメータゾーンの空調負荷を低減し優れた省エネ性が期待できます。

▮建物と隣地・道路境界について

境界線からセットバックし、街のひろばを設ける事で、圧迫感を軽減し、ゆとりある街並み・景観を創出します。

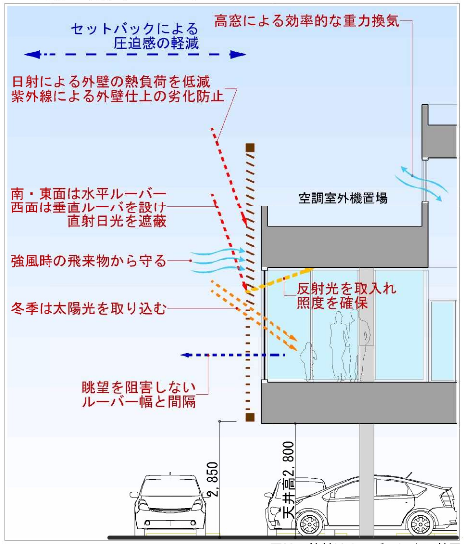


図39：外付けルーバーによる効果

ルーバーの有無・季節・時間別日射状況

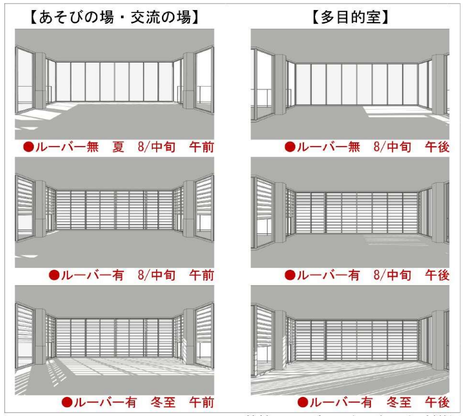


図40：外付けルーバーによる時間別日射状況

空調計画について

・事務室、相談室の部屋はビル用マルチ方式を採用します。一時預かり室、多目的室、あそびの場は、輻射式冷暖房方式を採用します。

・輻射式冷暖房方式は風を送らず、床下に設置した輻射パネルの熱交換により空調を行うため、下記のメリットがあります。

・風を直接吹出さない為、風が直撃することによる冷やしすぎたり温めすぎを防ぐ。
・冷暖房時の空気乾燥がない。
・部屋の空気をかき回さない為、花粉、ウィルス、ほこりをまき散らさない。
・床の温度が従来の床暖房のように熱くならない為、低温やけどの心配がない。

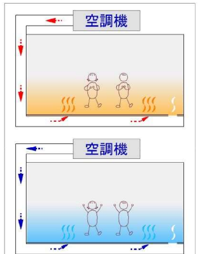


図41：輻射式冷暖房のイメージ

感染症対策について

・感染拡大要因である飛沫感染（マイクロ飛沫）接触感染に対する対策を行います。

【飛沫感染に関して】

▮自然換気での対策

・換気の悪い密閉空間をつくらず、主要な室を外壁面に配置する。
・建物内部の流れをつくるため、換気バランスの良い開口部の大きさや位置に配置する。

▮機械換気での対策

・雨天時、降灰時には自然換気は期待できないため、機械による換気やCO2センサー付きロスナイ機の採用を検討する。
・CO2濃度の状態をLEDランプで表示され換気量の状態のみえる化を行う。

【接触感染に関して】

▮手指衛生と手洗い器の設置

・各所に手洗い場所（子供用手洗い器）を設置する。WC内換気扇スイッチは、利用者が入り切りできない位置に設置する。

▮非接触器具の採用

・手洗い・便器等はセンサー式とし、便器蓋は非接触とし蓋が閉じて洗浄を行える器具を選定。
・モノに付着したウィルス対策として、自動ドア、エレベーターの非接触ボタンなど採用する。

▮抗ウィルス建材や抗菌仕様建材を選定

・遊具、家具等には消毒等により変色変形しないものを選定する。また、単純な形状・構造とし清掃しやすいものとする。

職員が働きやすく安心・安全な空間

・各室への動線は短く、視線が届く事務所配置とします。子育て支援施設では、一瞬の油断が子どもの事故や怪我に繋がる可能性があるため、管理用のカメラの設置を検討します。

・職員の健やかさに配慮したインテリアデザインとなる什器や内装材を選定します。

参考室名	条件(㎡)	計画室名	計画(㎡)
キッズスペース	300	あそびの場	310
交流ゾーン	35	交流の場	32
多目的室	60	多目的室	60
親子読書エリア	30	親子読書の場	32
一時預かりルーム	70	一時預かり室	70
事務所・給湯室	50	事務所・給湯室	50
倉庫	↑	書庫・倉庫	11
相談室	36	相談室	35
授乳室, 幼児シャワー室	20	授乳室, おむつ交換室	20
キッズトイレ2室	20	キッズトイレ シャワーユニット	20
男子・女子 バリアフリートイレ	36	男子・女子 みんなのトイレ	67
半戸外交流ゾーン	40	緑・砂と水のひろば	39
他	303	他	247
計	1,000	計	993

図42：面積表